

商業簿記Ⅱ

【第9回】

テーマ4 債権・債務の会計処理

テーマ5 有価証券①

最初に、「債権」「債務」とは何か？調べてみましょう。

テーマ４：テキストP66・76

債権とはなにか？	
債務となにか？	

次に、「債務の保証」とは何か？調べてみましょう。

テーマ４：テキストP 81

保証人とはなにか？	
連帯保証人とななにか？	

催告の抗弁権を有するかどうか
検索の抗弁権を有するかどうか

債権（権利）・債務（義務）関係の処理は

「勘定」と「勘定科目」の2つで理解する！

		債 権	債 務
勘 定		資産の勘定	負債の勘定
勘定科目	ツケによる取引	売掛金(P30)	買掛金(P30)
	クレジット取引	クレジット売掛金（P66）	なし
	手形取引	受取手形（（P67）	支払手形（（P67）
	固定資産等で 手形取引	営業外受取手形（P74）	営業外支払手形（（P75）
	電子記録	電子記録債権（P77）	電子記録債務（P77）

1. 債権・債務の一連の仕訳を書き出してみよう(P66～73)

<仕訳例の金額>仕訳は三分法

商品300,000円を販売した。代金については、下記の①と②とする。それぞれの
場合の仕訳を示してください。

会計処理方法	① 対価は現金で受け取った		② 対価は売掛金とした場合	
	借方	貸方	借方	貸方
【期首】 再振替仕訳				
【期中】 期中仕訳 (1)販売したとき				
【期中】 (2)回収した時				

1. 債権・債務の一連の仕訳を書き出してみよう(P66～73)

<仕訳例01と02の金額>仕訳は三分法

商品300,000円を販売した。代金については、下記の③と④とする。それぞれの
場合の仕訳を示してください。

会計処理方法	①クレジット売掛金の仕訳 カード会社への手数料は1% (P66)		②手形で受け取った場合の仕訳 (P67)	
	借方	貸方	借方	貸方
【期首】 再振替仕訳				
【期中】 期中仕訳 (1)販売したとき				
【期中】 (2)回収した時				

2. 債権・債務の一連の仕訳を書き出してみよう(P66～73)

＜仕訳例03と06の金額の金額＞仕訳は三分法

仕訳例01・02の続きで、商品300,000円を販売し、受け取った④の受取手形について、仮に回収していないとして、下記の⑤と⑥の処理を考えてください。

会計処理方法	⑤商品30万円仕入れて、 手形を裏書譲渡した場合 (P68)		⑥手形を割引した場合 割引料は2000円とする。 (P71)	
	借方	貸方	借方	貸方
【期首】 再振替仕訳				
【期中】 期中仕訳 (2)受取手形に ついて				
【期末】 決算整理仕訳				

2. 債権・債務の一連の仕訳を書き出してみよう(P66～73)

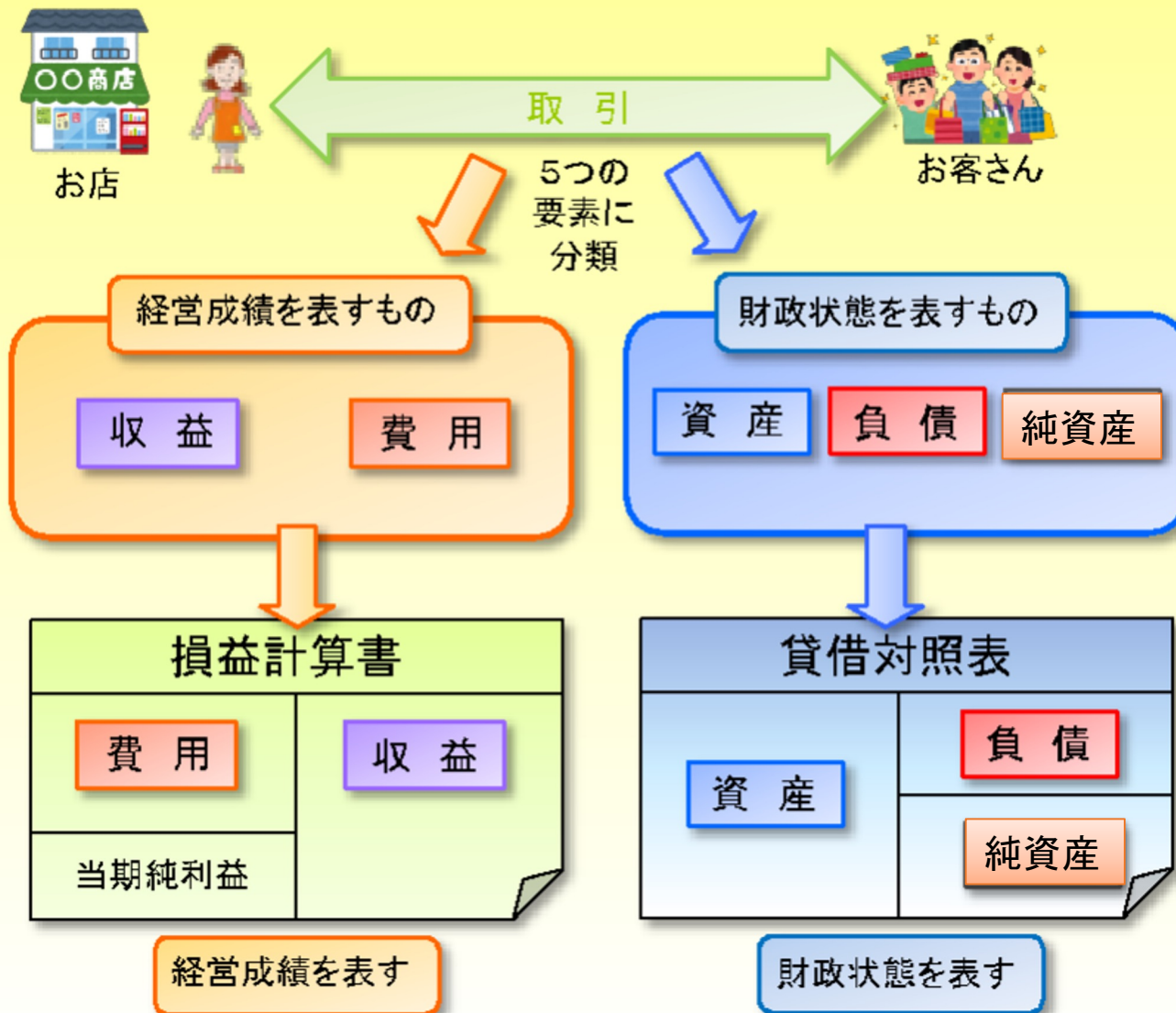
＜仕訳例03と06の金額の金額＞仕訳は三分法

仕訳例01・02の続きで、商品300,000円を販売し、受け取った④の受取手形について、仮に回収していないとして、下記の⑤と⑥の処理を考えてください。

会計処理方法	⑤商品30万円仕入れて、 手形を裏書譲渡した場合 (P68)		⑥手形を割引した場合 割引料は2000円とする。 (P71)	
	借方	貸方	借方	貸方
【期首】 再振替仕訳				
【期中】 期中仕訳 (2)受取手形に ついて				
【期末】 決算整理仕訳				

もう一度、簿記の原理から「仕訳」を考えみよう！

簿記の5つの要素と財務諸表



複式（二式）簿記はこの8要素の組み合わせ！

簿記のルールをまとめた「取引の8要素の表」

取引の8要素の表

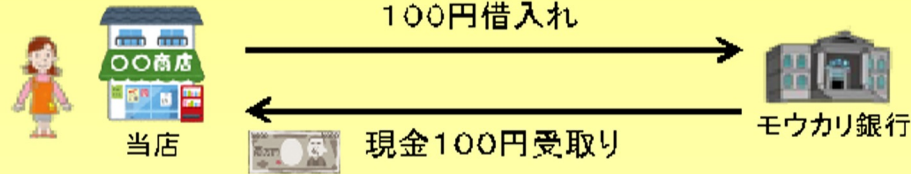
左側	借方	右側	貸方
資産の増加		資産の減少	
負債の減少		負債の増加	
純資産の減少		純資産の増加	
費用の発生		収益の発生	

借方の資産の増加は、貸方における4つの場合のいずれかに結びつきます。！



「認識」と言います

簿記のやり方をまとめると



資産

が増加した

負債

が増加した

取引の8要素の表

左側 借方	右側 貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

会計帳簿(仕訳帳)

左側 借方	右側 貸方
資産	負債

勘定

会計帳簿(仕訳帳) 具体的な名称(勘定科目)に直す

左側 借方	右側 貸方
(現金)100	(借入金)100

勘定科目

貸借平均の原理

【取引例】三分法で仕訳を示してください。

- ① お客さんに商品120円を売上げ、代金は現金で受け取った。
- ② お客さんに商品120円を売上げ、代金は掛けとした。
- ③ お客さんに商品120円を売上げ、代金は手形で受け取った。

簿記のルールをまとめた「取引の8要素の表」

取引の8要素の表

左側 借方	右側 貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

借方の資産の増加は、貸方における4つの場合のいずれかに結びつきます。!



該当する科目を選んで○で囲んでください。	借方：資産の増加		貸方：収益の発生	
	勘定科目	金額	勘定科目	金額
①の場合の使用 する勘定科目は？	・現金 ・売掛金 ・受取手形 ・未収入金		・売上 ・商品売買益 ・受取手数料	
②の場合の使用 する勘定科目は？	・現金 ・売掛金 ・受取手形 ・未収入金		・売上 ・商品売買益 ・受取手数料	
③の場合の使用 する勘定科目は？	・現金 ・売掛金 ・受取手形 ・未収入金		・売上 ・商品売買益 ・受取手数料	

3. 資産と負債について調べてみよう！

	「売上」債権	「仕入」債務
(1)意味は何でしょうか？		
(2) 5つの勘定のどれに分類されますか？ また、その理由は？	【5つの勘定】○をつけてください。 ①資産、②負債、③純資産、 ④収益、⑤費用	【5つの勘定】○をつけてください。 ①資産、②負債、③純資産、 ④収益、⑤費用
(3) そもそも5つに勘定って何なんですか？		
①資産ってなに？		
②負債ってなに？		
③純資産ってなに？		
④収益ってなに？		
⑤費用ってなに？		

5つの勘定の定義について、
「**概念フレームワーク**」で調べてみよう！

討議資料

財務会計の概念フレームワーク

財務会計の憲法

2006年12月

企業会計基準委員会



「財務会計の」世界がどうなっているのかを知らう！

上位概念

【会計公準】

①企業実体②継続企業③貨幣評価

【会計観】

①資産負債アプローチ（BS中心観）
②収益費用アプローチ（PL中心観）

【財務会計概念フレームワーク】

財務報告の目的や概念など

【企業会計基準】

企業会計原則
金融商品に係る会計基準など

下位概念

【実務対応指針など】

各種実務対応指針（具体的仕訳）
会社法計算書類規則など

簿記の仕訳

会計基準の設定主体

国際会計基準審議会 (IASB)
(IFRS: 国際財務報告基準)

米国財務会計基準審議会 (FASB)
(USGAAP: 米国企業会計基準)

コンバージェンス
(収斂)

企業会計基準委員会 (ASBJ)
(JGAAP: 日本企業会計基準)

従来型：②収益費用アプローチ

新型：①資産負債アプローチ

企業会計原則による収益認識基準

企業会計原則による減価償却規定

収益認識に関する会計基準

減損会計に係る会計基準

〔資産〕

4. 資産とは、過去取引または事象の結果として、報告主体が支配している経済的資源をいう^{(2) (3)}。

〔負債〕

5. 負債とは、過去取引または事象の結果として、報告主体が支配している経済的資源を放棄もしくは引き渡す義務、またはその同等物をいう^{(4) (5)}。

〔純資産〕

-
- (1) キャッシュ・フロー計算書等については、改めて構成要素を定義しない。
- (2) ここでいう支配とは、所有権の有無にかかわらず、報告主体が経済的資源を利用し、そこから生み出される便益を享受できる状態をいう。経済的資源とは、キャッシュの獲得に貢献する便益の源泉をいい、実物財に限らず、金融資産及びそれらとの同等物を含む。経済資源は市場での処分可能性を有する場合もあれば、そうでない場合もある。

純資産]

6. 純資産とは、資産と負債の差額をいう。これは報告主体の所有者である株主 連結財務諸表の場合には親会社株主)に帰属する資本と、その他の要素に分けられる。その他の要素には、報告主体の所有者以外に帰属するものと、いずれにも帰属しないものが含まれる。
7. その他の要素のうち、報告主体の所有者である株主以外に帰属するものには、少数株主持分などが含まれる⁴。他方、いずれにも帰属しないものには、リスクから解放されていない投資の成果などが含まれる。

収益]

13. 収益とは、純利益または少数株主損益を増加させる項目であり 原則として資産の増加や負債の減少を伴って生じる⁶。

会計観：資産負債アプローチ(B/S中心)

費用]

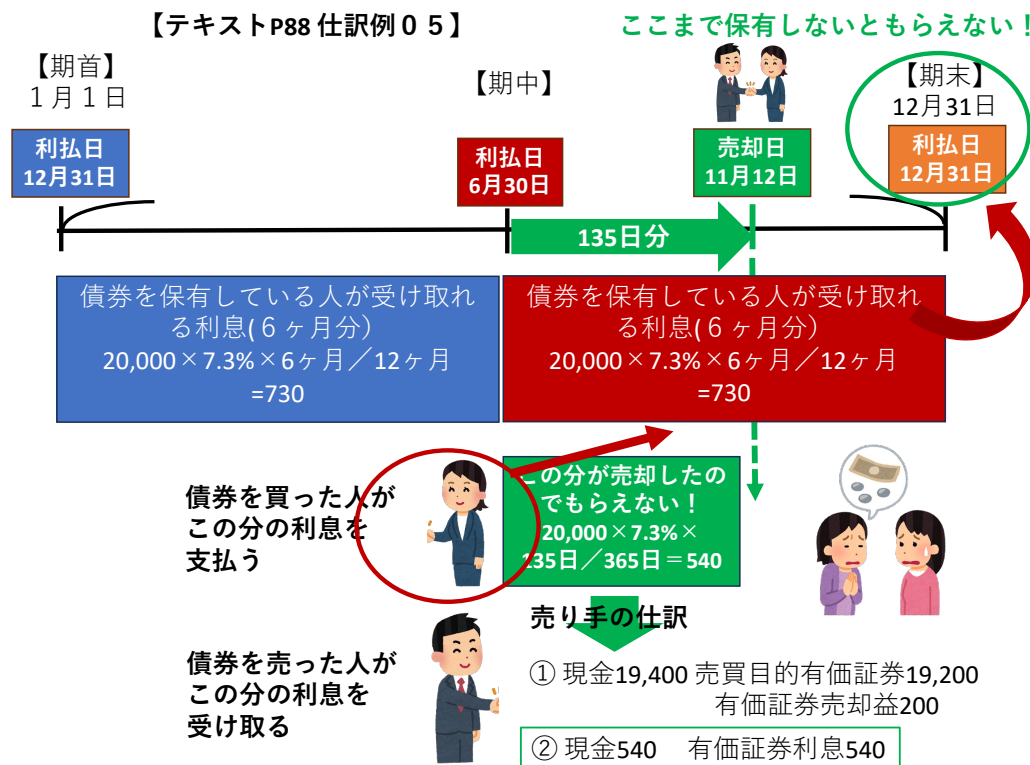
15. 費用とは、純利益または少数株主損益を減少させる項目であり 原則として資産の減少や負債の増加を伴って生じる⁷。

テーマ5：有価証券 1. 有価証券の期中における仕訳を書き出してみよう(P82～89)

＜有価証券の範囲＞ 有価証券2種類 会計処理方法	「 」の仕訳(P84)		「 」の仕訳((P86～88)	
仕訳例の金額	＜設例5-1＞ (1)取得原価80,000で売買目的により株式を取得(現金払い) (2)売却は上記のうち41,000分の株式を50,000で売った (3)配当金を3,000受け取った		＜仕訳例03・04＞ (1)売買目的により、社債を購入額9,500、手数料50で取得(自己振出小切手払い) (2)9,550の社債を9,600で売却し、現金で受け取った (3)端数利息を540受け取った	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方
【期首】 洗替仕訳 (P 91・92)				
【期中仕訳】 (1)購入したとき (2)売却したとき (3)配当・利息を受け取ったとき (P84～P89)				

【テキストP88仕訳例05】

端数処理は自学習用に動画解説をご用意しています。



解説動画はこちら

2. 仕訳の金額を集計してみよう

＜上記仕訳例の金額の集計する＞

T勘定（総勘定元帳）を使って「**株式の仕訳(1)～(3)までの金額**」を集計してみてください。

株式の仕訳を集計（設例5-1を参照）

売買目的有価証券	有価証券売却益	受取配当金

3. **決算整理に入る前**に試算表を作成してみよう

決算整理「**前**」残高試算表（一部）

× 年 3月31日

借方	勘定科目	貸方
	売買目的有価証券	
	有価証券売却益	
	受取配当金	